

2010年度  
海外研修・研究等助成事業 研修報告

## 韓国の 小学校教育に学ぶ

—英語教育・ICT活用・  
教員研修の視点から—

静岡市立賤機小学校 渡邊 千佳

1997年から小学校英語教育を開始するとともに、ICTを積極的に活用している韓国の教育現場を視察し、今後我が国における英語教育、ICT活用、現職教員の研修システムについて日韓の比較研究をすることを目的として、2010年9月にソウル市内および、近郊の小学校を訪問した。

### 1 英語教育について

仁川市ハンバク小学校は仁川市の英語特別教育の指定校である。英語の特別教室が整備されており、近隣の学校の児童が、わざわざその英語ルームに授業を受けに来るほどである。英語教師は専任であり、教材費も十分な手当てがなされており、子どもの活動を促す多様な機材があった。

### 2 ICT教育について

参観した全ての小学校の各教室の教卓上にコンピュータが設置されており、授業への活用頻度はかなり高く、必要な教材をその場でダウンロードして使用していた。3年生以上には一台ずつコンピュータが支給されており、操作にも習熟していた。全国の教員たちが作成した教材を投稿し、自由にダウンロードして使用できる Web サイトもある。コンピュータの導入が進んでいるためか、事物投影機は数が少ないように見受けられたが、インタビューに応じてくれた教諭からは、リアルタイムで、しかも子どもたちの作品などをすぐに提示できる長所があり、こちらも活用度は高いと聞いた。「校務の情報化」においては、日本の場合、各地方自治体に任されている部分も大きく、ソフトまで整備が行き届いていないところも多い。しかし韓国では、教育省のサイトにアクセスし、パスワードさえ入れれば、どの学校からも、そこで教員が入力し、印刷できるというオンライン化が徹底していた。

### 3 教員研修について

日本同様、全教職員で同じ授業を参観する機会は年間に数回設けられている。「管理職」だけが自校の職員を評価するだけでなく、全職員が「管理職」や「同僚」も評価する。評価の観点には、「授業力」も含まれており、同僚同士できちんと評価するためにも、お互いの授業を見合う機会が増えていると言う。緊張感があり、研修効果も大きいであろう。

### 4 成果と課題

英語教育、ICT 活用において、韓国は、ハード面、ソフト面ともに整備が行き届いていた。しかし、教室で一斉に指導するというスタイルは日本と同じであり、現場では「教師の指導力」がさらに問われるのであろうと感じた。言語は異なるが、文化も教育制度も共通点の多い日本と韓国。もっと教員同士の交流を深め、お互いの良いところを吸収しあうことはできないのだろうか。SNS（ソーシャルネットワークサービス）など、インターネットを活用して、気軽に交流できる場を探してみたい。

最後に、校務の情報化については韓国に学ぶべきことは多い。日本の現場の先生方の負担が減り、目の前の子どもたちとふれあう時間が一分でも延びるよう、早期の改善を切に願う。



仁川市立ハンバク小学校にて英語の授業



京畿道ジュンヒョン小学校にて理科の授業